



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

待降節第4主日 A年(2022年12月18日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 7章10—14節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 1章1—7節

福音朗読：マタイによる福音書 1章18—24節

## こ 来られる方を迎えるために むか

主の降誕の八日前である12月18日から、典礼のうでで降誕と密接に結びつく聖書の箇所が読まれていきます。そして、待降節の第四週では『誕生物語』の部分が読まれます(A年：マタイによる誕生物語、B年：お告げの場面、C年：エリザベト訪問)。さらに、アレルヤ唱はそれまでのメロディーに変えて、明るい色調のものとなり、叙唱では主が近づいていることを強く感じさせるものへと変わります。こうして、いよいよクリスマスが近づいたという印象を典礼を通して得ることができます。

イザヤ書7-12章が問いかけているのは、アッシリアという世俗の力に頼るのか、それとも主なる神に頼るのかということなのです。アハズ王はアッシリアに頼り、結果的に破滅を招きました。「信じなければ、お前たちは存続しない」(9節b フランシスコ会訳)。それでも主なる神は戦いで生き残った残りの者たちと共にいて、しるしをあたえると約束するのです。

イエスさまのしもべとさせられたパウロが伝えるのはイエス・キリストの福音です。そのイエスさまとは神のひとり子であり、完全な人間性を備えていながらも、人間の限界を超える死者からの復活を体験なさった方です。その方を伝えることで、すべての人が「信仰による従順」へと、つまり神の働き、恵みに従う者へと変えられていくのです。

第一朗読は預言者によって語られた神のことに頼るか、人間的な力に頼るかで、アハズの運命は決まりました。福音書でも律法に従うか、夢の中で天使の語る神のことに従うかでヨセフは神のことに従いました。ここにヨセフの正しさがあります。後に生まれてくる幼子イエスは肉によれば人間ですが、霊によれば神の子という神秘的な存在なのです。

## クリスマスあれこれ

クリスマスはすべての人のお祝い日ですが、いつの間にか主の降誕という本当の意味が薄れているようです。初老の神父のぼやきとしてお聞きください。

### 「クリスマスイブ」はない

「クリスマスイブ」の直接的な意味は「クリスマスの晩」です。ですから「12月25日の晩」を指します。しかし、いつの間にか24日の晩、つまりクリスマスの前晩を指すようになりました。

カトリック教会には「クリスマスイブ」は存在しません。24日の夜のミサは、本来、25日の真夜中に行われるものです(夜半ミサ)。それを前倒しで夕方から行うのです。「イブのミサは何時ですか?」と訊かれるたびに、わたしはイラッとします。最近は若い神父たちも堂々と「クリスマスイブのミサ」と言っています。情けない。

### クリスマスはイエスさまの誕生日ではない

一部のキリスト教諸派では最近、クリスマスをイエスさまの誕生日としてお祝いするようです。クリスマスはイエスさまの誕生日ではありません。イエスさまは「来られる」方です。クリスマスは、幼子としてこの世に来られた方を喜び祝うのです。イエスさまが来られたから、わたしたちの心に平和と喜びが訪れたのです。それを誕生日と理解するのは少し世俗的な印象があります。

### 馬小屋が大切

クリスマスツリーを飾る方もいらっしゃるでしょう。クリスマスリースを玄関先に飾る方もいらっしゃるでしょう。しかし、それらの飾り物は主の降誕を示すものではありません。大切なのはイエスさまの誕生を表す馬小屋です。母マリアとヨゼフが幼子イエスさまを見守っている小さなお人形で結構ですから、お家に飾ってみてください。クリスマスの迎え方が少し変わると思います。

